



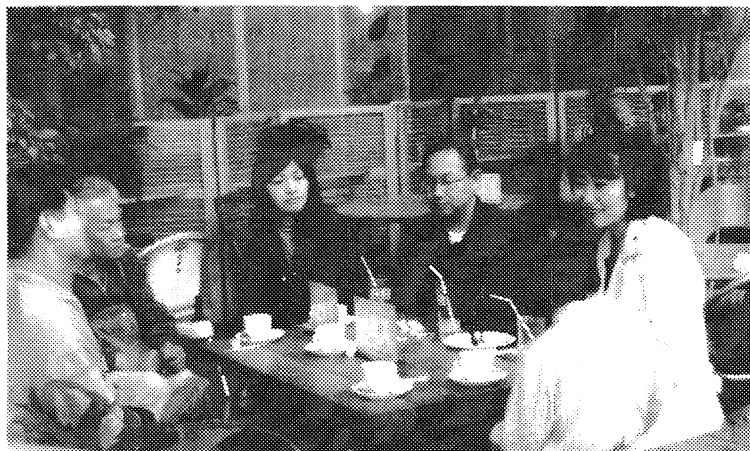
長居植物園へ春を探しに

〈サロン・あべの〉4月の出会い

しぶりに育徳コミュニティセンターを飛び出して、「長居植物園へ春を探しに」出かけました。

平成19年4月21日(土)は、久

園へ春を探しに



ぽかぽかした陽気に初夏の気配さえ感じるこの日、参加者は、今盛りのチューリップやハーブ園などをみたり、大池・小池・溪流の水に癒されたり、一文字橋の上から見るハナミズキに満足したり、思いおもいに散策して花や緑を楽しみました。そして、ルーファガーデンで人工地盤での緑化技術も体感しました。

植物園のこと

植物園は長居公園の東

南の一角に、その約3分の1(総面積24・2ha)を占め、鑑賞園、教材園、各種見本園など、自然から学び豊かな情操を養うことを目的として昭和49年4月(1974/4)に開園しました。

数多くの野鳥たちが集まる自然の楽園の中には、四季を通じて咲くいろいろな花や、約1000種類もの樹木があります。その中には、生きた化石といわれるメタセコイアや、巨木樹として知られるセコイア(第三期植物群)、アケボノゾウが生きていたころの明石植物群、1万年〜200万年前の大阪の原生林(氷期・間氷期植物群)、照葉樹林、二次林など大阪の樹木を時代別に、その代表種によって再現しています。

園内に併設された自然史博物館では、自然とのふれあい、人と植物とのかわりをわかりやすく説明しています。昭和56年10月(1981/10)には、都市緑

化植物園として整備をおこない、みどりの相談所が設置されました。

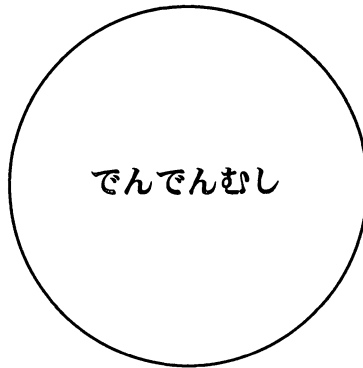
平成13年4月(2001/4)

に、大阪市における花と緑と自然の情報ネットワークの中の核施設として、花と緑と自然に関する、あらゆる情報の収集・蓄積・発信基地となる「花と緑と自然の情報センター」がオープンしました。園芸相談のコーナーや展示会・講習会は、現在では花と緑と自然の情報センターで開催しています。

三々五々春を探した後、植物園内の「花と緑と自然の情報センター」で休憩(前写真)、初参加の方ともうち解けて、話はずみしました。都会の中のオアシスで、今が旬の草花にふれ、春を満喫したサロン・あべの4月の出会いでした。

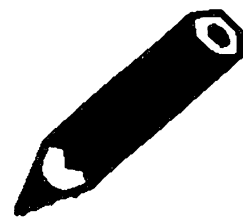
(参加者8名 山村貴司)

サロン4月の出会いで長居植物園に行ったとき、参加者の子どもさんがそっと電動車いすの操作台に2cm足らずのかたつむりを置いてくれました。私はかたつむりの殻だと思っていましたので「車いすを走らせると落ちるよ」といいながらあちらこちら気の向くままに楽しんでいました。そして、気がつくとき手元にあつたかたつむりがなくなっていました。ころげ落ちたのだと思い、辺りを見回すと傍らについていた子どもさんが手の平を差し出して、かたつむりを見せてくれました。小さな手の平の真ん中で、かたつむりはそっと首を出し目玉を伸ばしていたのです。小さな殻からおもいきり伸びをして、辺りを見回している姿はりっぱなかたつむりでした。おもわず「でんでんむしむし かたつむり♪♪♪」と口ずさんでしまいました。このように生きたでんでんむしに出会ったのは、何年ぶりでしょうか。子どもの頃は我が家の庭にもかたつむりやおおがえる、かげろうとんぼの姿を見たことがあります。が、このウン10年はまっ



たく見た記憶がありません。晴天に恵まれたこの日、どこにいたのか知りませんが子どもさんの目ざとさと好奇心の豊かさのお陰で、見せていただけたでんでんむし。本当に嬉しく思いました。それとともに目にしなくなった小さな生きものの姿がふいに浮かんだのです。農薬や化学肥料などを使ったことのない、やりっぱなしの我が家の狭小の庭でさえ姿を消していった生物の多いことを思い知らされ心が寒くなりました。地球温暖化で北極や南極で暮らす動物たちの生命が、生活が、脅かされているという新聞記事がよく見かけるようになりましたが、それは記事としての遠い話のように感じていました。しかしながら、今回のもんでんむしとの出会いでもっと身近なところでも、小さな命を守り育ててゆける地域環境が必要であり、それに配慮した生活を心がける私たちの姿勢が大切だと思いました。そして、子どもたちに四季折々の動植物の思い出作りができる日々が実現できますようにと願わずにはおられませんでした。(け)

37



邦子、 ..ん歳の手習い。

パークレー旅行②

前にパークレーに旅行したのは、7年前でした。それは、夫が亡くなって1年後だったので、街の様子などはあまり注意して見るゆとりもありませんでした。今回は大学の回りなどのなつかしい場所を姉とただ歩くだけが目的の気楽な旅行でしたが、ずいぶん大学付近の様子が変わったような気がしました。以前よりも歩道が広くなり、きれいに舗装され、車イスは動きやすいのではないかと感じました。また、大学のまわりを走るバスがとても便利でした。

パークレーは、障害者自立生活運動の発祥の地でもあり、20年前の夫の留学時でも歩道

の段差などは解消されていましたが、古いままでした。また、その頃もバスは車イスも乗れるようにアクセスされていましたが、大学の回りを走るバスはなかったような気がします。車がなければ不便で、その点では、健常者にとっては公共交通機関の発達した日本は便利だと思っていました。

今回の旅行では、アイリーンさんとスーザンさんのお宅を訪問しましたが、宿泊した大学近くのホテルからバスを利用して行きました。お2人のお宅は、偶然にも近く、大学から車なら10分ぐらいの閑静な住宅地にあり、付近には素敵なレストラン、かわいい小物のお店、肉屋さん、八百屋さん、パン屋さんなどがあり、ヨーロッパ的な雰囲気を感じていました。お2人とも住居と近隣を気に入っていました。アイリーンさんのお話では、八百屋さんなどの小さなお店での買い物が入っているということ、近くに大きなスーパーもあるのですが、小さな個別のお店で買うのがその付近では人気らしいです。電動車イスを利用しているスーザン(ポリオの障害者、元パークレー大学の障害者学生プロダラムのスーパーバイザー)さんは、大学にも近く、近くにはバート(地下鉄)の駅などがあり、交通も便利なことに加え、レストランやお店のあるヨーロッパ風の街並みが気に入っているようでした。

姉と私は、バス停からその素敵な街並みを

見ながら歩いていくことができ、バスを利用して楽しくかったです。3月末は、大学が日本と同じで春休みだったので、大学の回りには学生は少なかったこともあり、バスの乗客は少なかったですが、老人、学生風の若い人、車イス障害者など様々いました。今回私が見たのは、パークレーでも大学付近の小さな地域ですが、住民もバリアフリーであることが当然という意識を持っているような感じがしました。また、障害者の移動にとって必要な公共バスが整備されていることは、障害者以外の者にとっても便利です。障害者自立生活運動も全米に広がり、かつての自立生活運動の闘士たちは、今はワシントンで活動しているということ、今ではパークレーが障害者運動の中心ではないようですが、かつての自立生活運動の歴史の重みがパークレーの街には残っているような気がしました。

(定藤邦子)

ありがとうございます。

カンパ、はがき・チケットの寄贈、また、サロングッズの買い上げなどありがとうございます。

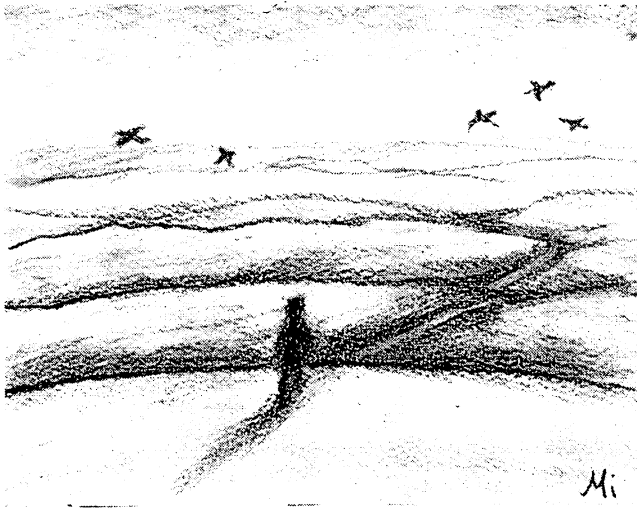
磯崎章一、奥田真祐美、風智恵子、

近藤千枝子、野村嘉寿子、東百合子、

その他の方々。(敬称略)

夢で考える

認知症の人の気持ちは「夢を見ているよ
うなものではないか」と、ある医師がどこか
で書いていた。たしかにそうかもしれない。
たとえば、今朝は楽しい夢を見たと思っ



て起きたら、どんな夢を見たのか忘れてし
まった。「楽しい夢だったのに」と思うが、不
思議なほど何の夢だったのか思い出せない。
ただ「楽しかった」という漠然とした印象だ
けが残っている。

先月、母と私は、父を連れて旅行にいっ
た。そのあと「良かった」と父は何度も母に
言っているそう。しかし、どこにいったの
か、その地名はどうしても覚えられないら
しい。何をしたのかも、ほとんど覚えていな
いのではない。ただ「良かった」という気
持ちは残っているのである。

認知症の人が家族と口論をしても、しば
らくすると何を口論したのか本人は忘れて
しまう。それだからこそ口論してもいいの
だと考えている家族がいたとしたら、それ
は間違っている。何を口論したかは忘れて
も、何か不愉快なことがあったということ
は記憶に残るそう。ちょうど嫌な夢を見
たあと、その夢の内容は忘れても、嫌な夢を

まっさきに気がついている
君からの手紙
いちばん最後にあける

—— 俵 万智
(とれたての短歌です)

サロンの一筆箋

一冊一〇〇枚綴り一五〇円

みたということ自体は覚えているようなも
のである。

認知症の人が妄想にとりつかれていても、
それはどこかで嘘だとわかっているはずだ
という話もある。たとえば、ずっと以前に退
職した職場に今から行かなければいけない
と訴えている人も、どこかで自分はずでに
退職した身だということを知っているのか
もしれないというのである。

これも夢を考えれば理解できる。小学校
の教室に生徒として座りながら、「おかし
いなあ、私はもう大人になっていたはずなの

に」と疑問に思うという夢を、私は何度も見た気がする。しかし、その疑問を夢の中の誰かに話すこともなかった。誰かに話してみるということをして、不思議なことに全く思いもつかないのである。

私は学生のころの夢をよく見る。ある夜、大学を卒業したあと、数学の大学院の受験をする夢を見た。しかし「わけがわからないなあ。私は、もう社会福祉を教える仕事に就いていたはずなのに、なぜいまさら数学の大学院に進むのかな」と夢のなかで首をかしげていた。自分の置かれた状況がよくわからないのである。そして、焦りながらも困惑していた。これなども自分の状況が把握できない認知症の人の心境に近いのかもしれない。

夢の中で、これが夢だと気づくのはたいへん難しいという。私も夢の中で夢と気づいたのは生涯で数回だけだ。また気づいても、それを誰にも話すことができず、誰かに相談することなど考えもしないまま、なんだか変だな、変だな、と思いながら夢のなかを歩んでいた。私の父もそんな歩みのなか

(知)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第250号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第250号までそろっています。 (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」 (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦) (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分) (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳) (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳) (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ) (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一著＝糸でんわ音訳) (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳) (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で | <ul style="list-style-type: none"> んわ音訳DJ) (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作) (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳) (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳) (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ) (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ) (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳) (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳) (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳) (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ) (t) 阿倍野名所旧跡いろはがた(猿田博＝糸でんわ音訳) (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳) (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ |
|---|--|
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

お 知 ら せ

〈サロン・あべの〉6月の出会い

内 容：建築から見た福祉とまち

お 客 様：中北 清さん

(株)中北建築事務所・取締役

NPOふくてつく事務局長

日 時：6月16日(土) 午後1〜4時

場 所：育徳コミュニティセンター

2階研修室

(スロープ・車いすトイレ有)

阿倍野区阪南町5-15-28

TEL 06-66621-1901

最寄り駅：地下鉄御堂筋線「西田辺」

会 費：なし

問 合 わ せ 先：

TEL 06-6691-1028 (富田)

晴れのち晴れ-104-

稲垣恵雄

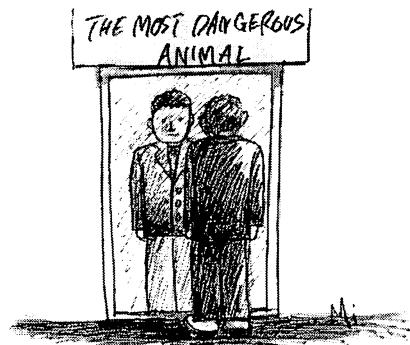
□かわいいのは？ こわいのは？ ③

ところで米国の某動物園の入口の壁に「世界中で一番こわい動物が見られます」という張り紙がしてあり、その横に等身大の鏡が掛けてあるそうだ。これを見た入園者が「一体どんなこわい動物が見られるだろう」と興味半分、こわさ半分でそっと鏡の前に立つという。当然ながら鏡に映ったのは自分の姿である。誰が自分が世界中で一番こわい動物だと思うだろう。私だってそうは思わない。

実は1カ月ぐらい前に仏教書を読んだ。その本の中で浄土真宗の開祖・親鸞聖人が、「私ほど罪が深くて恐ろしい人間はありません。例えば善人だから人を殺さないのではなく、そういうきっかけがあれば何人殺すか分かりません。そのきっかけというのは縁に触れたら何をするか分からないという恐ろしくてどろどろしたいやな心の持ち主なんです」とおっしゃっている。

ここで注目すべきことは「恐ろしいのはすべての人間である」と言わずに「親鸞自身である」と言い切っておられるところである。「すべての人間である」と言えばなんだか他人事のように聞こえるが、親鸞聖人はいかに自分に厳しくて「一番こわいのは私である」と本当にそう思っておられることがよく分かる。そうなる前と前述の動物園の「世界中で一番こわい動物はこの私である」というのと相通じるものがあり、間違いのないわけである。

いずれにしてもこの世で一番かわいいのも自分であり、一番こわいのも自分であるということを改めて知らされたような気がした。





ヴェクショー大聖堂

Mai スウェーデン 留学記 8

ヴェクショーの小さなお店

私が留学していたヴェクショーは、人口1万人にも満たない、こじんまりとした街です。この周囲を「スモーランド地方」といいます。

昔からガラス工業

が発達していた地

域で、たくさん

有名ブランドの工

場が名を連ねてい

ます。コスタ・ボ

ダ、オレフォオーシ

ユ……。だからこ

ういうふうになら

れますー「ヴェク

ショーはガラス臭

いぞ」。サッカーの

国内リーグ戦でヴ

ェクショーチームと

対戦したときに相

手チームの応援席

から必ずそういう

歌を歌うので

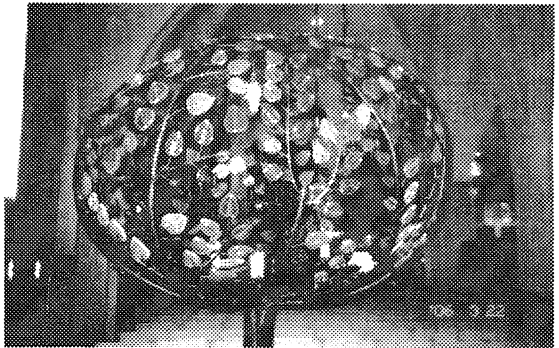
す。

さて、このガラス

工業地帯の拠点

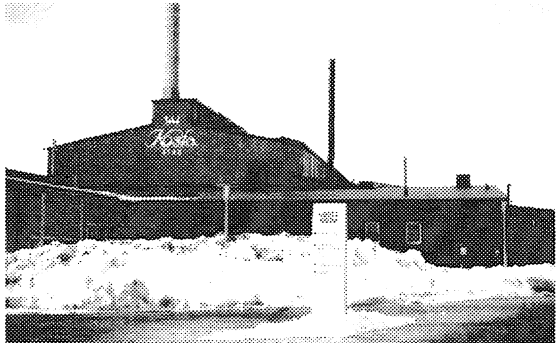
でもある

大聖堂内・ガラスでできた木の葉っぱ



大聖堂内・ガラスでできた木の葉っぱ

コスタ・ボダの工場（コスタにて）



コスタ・ボダの工場（コスタにて）

お店、夏はオープンカフェでお茶の時間を楽しんでる人々、アイスクリームを片手に歩いている人に出会い、ワクワクします。繁華街といっても首都ストックホルムのように観光客もいない、平日の昼間はお年寄りや障害のある人がのんびりと散策している、まるで

時間を忘れてしまうような感覚になります。私は、安らぎを求めて、時々この繁華街にある小さな雑貨店に立ち寄ります。お店の名前は「パツペリアン」。障害のある方とスタッフが、コミュニケーション（日本の市役所のようなもの）から届く大量の紙を再利用し、和紙のような手触りのカードやランブカバーを作ったり、自分達で考えたデザインを絵付けして売っています。カードだけでなく、カバンや鍋敷きなどまであります。初めてこのお店を訪れたのは、ヴェクショー



コスタ・ボダ製のガラス製品(コスタにて)

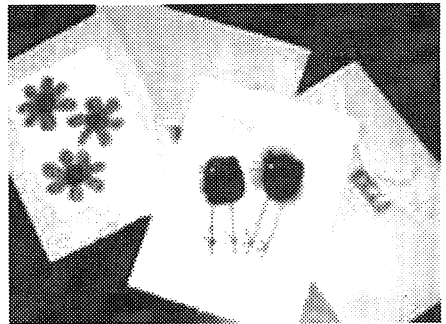


ヴェクショーの街並み (ポストカードより)

ー大学のソーシャルワークの授業でのこと。フィールドワークで、障害者のデイセンターを訪問することになっていました。そして訪れたのが、そこでした。外見は普通のお店。大通りからは少し外れていますが、繁華街の中で、とてもデイセンターを連想することはできませんでした。中で売られているカードに「デザインされたひよこや花柄の絵のかわいらしさ、優しさ溢れた雰囲気」に息をのみました。数人の知的障害のある方達が一生懸命、

黙々と色を塗ったり、絵を描いたり、自分達の仕事に打ち込んでいました。スタッフは、あくまで障害の方達に材料を手渡したり、レジでお金の管理をヘルプしているだけでした。レジには、誰でも簡単にわかるような使いやすいソフトを導入したコンピューターを置き、それで障害のある方とスタッフが一緒にお金を管理していました。「集中したい」方には、特別に個室を与えて、彼女はその部屋で、デザイン

を考えたたり、カードに絵付けをしたり、自分の仕事に熱中していました。20代から50代くらいの人達がみんな一生懸命に自分の仕事に誇りを持って夕方まで、このデイセンターで過ごし



パッペリアンのカード
和紙のような手触り。紙作りからデザインまですべて障害のある方達で作っています。

ています。地下に案内されると、そこは、紙作りの工場のような。6人の障害のある方達が、紙をすいて、カードやランプカバーにするための紙を作っていました。私達がスタッフから説明を受け、一通り見学し終わると、1人の男性がスタッフに「紙作りをやってみないか」と提案してくれました。その提案に甘えて、紙すきを体験させてもらったのです。単純な作業のようで、結構難しく、私達留学生は、子どもみたいにはしゃいで、1人1枚、紙を作ることに没頭してしまいました。うまく紙ができると、みんなでにっこり。素敵な時間を過ごすことができました、忘れもし

甦るスウェーデンの思い出

こんばんは。

年度変わりで忙しく時間がいくらあっても足りないくらいです。メールを打つのにものすごく時間がかかりますので・・・深夜ですが電話で失礼します。

サロン紙で、いつも、勉強させてもらった、楽しませていただいたり、いろいろありがとうございます。

30年くらい前、当時は、アンカレッジで給油し何時間も待ったのちコペンハーゲンを経由してヨーロッパの国々へ行くような時代でした。そんな頃に、私はスウェーデンへ旅したことがあります。

清原舞さんの「スウェーデン留学記」は回が進むにつれ、私のセピア色になったその時の思い出を、その土地の雰囲気をもとにひとつひとつと鮮明な色で甦らせてくれ、いい時間を過ごさせてくれています。

清原さんの初々しく、積極的な感じがピンピン伝わってくる「スウェーデン留学記」をこれからも楽しみにしています。

夜遅くに電話して申しわけありませんでした。
(吉岡克彦)

ない授業でした。

個性豊かなデザインと優しき溢れる素敵なお店。訪れる人が笑顔で帰っていくお店。心から、「タック ソ ミュック！」(スウェーデン語でどうもありがとう)を言うことができるのです。もし皆様が、ヴェクシヨールを訪れることがあれば、ガラス工場に行く前に、少し、このお店を探して立ち寄って、「ハイ！」(こんにちは)と声をかけてみてください。きっと元気になります。

今、私は帰国して、マニュアル化され、ただスピードだけが求められている多くのお店に行く、疲れ果て、心が冷えてしまっています。お店だけでなく、日本での生活は、想像以上に大変なもので、心も体もカチコチに凍ってしまっています。コミュニケーションがない社会、時間に追われてどうしようもなくなっている社会に、どうぞ優しさを、相手を思いやる気持ちを忘れないでくださいと言っています。無理な願いなのでしょう。(清原 舞)

「さろん亭」へ
品物の心づもり

さろん亭

お願いします。

美智子のこんな話

岸田美智子

25歳女性が焼死：
自立生活の点検を！

4月22日の朝日新聞朝刊にシヨッキングな事故の記事が掲載されていました。

119番「私は障害者 逃げられない」という見出しで大分県別府市で、寝たきりの手足の不自由な25歳の女性障害者がベッドから出火し全身やけどで、救出されたが亡くなられたというシヨッキングな記事が載っていました。私はこの記事を読んで、やっぱり起こってしまったかと、あきらめに近い感想を持ちました。なぜならば、地域での重度障害者の自立生活は、まだまだ介助や住宅の面でも制度が不十分で問題だらけだからです。

この事故に遭われた女性障害者の方の生厩がどのようなものであったのかを、つくづく考えてしまいました。学校教育は、普通学校か養護学校のどちらだったのだろうか？

もし、養護学校だったのなら、地域で暮らしに行ける知識や情報が、十分受けられていたかどうか？ 地域での自立生活を始める時に、介助や災害時などの問題をどこまで意識出来ていたのか？ などなど

この事故が起こった背景や社会状況などを捉え返して行く行動が私達に求められているような気がしました。

この障害者の方が住んでおられたのは、ユニバーサルマンションだったと書かれていましたが、このようなマンションは、どんどん増えてきていると思います。車いすで生活しやすい住宅は、ただ段差を無くし、スペースを広げれば良いというものではないはずです。

そして、読売新聞の方に

載っていた、火災原因である電動床ずれ治療器具の安全性も、今一度見直して行く必要性があるのではないかと思います。

今、地域で暮らす重度障害者がどんどん増えてきています。福祉ホーム・グループホーム・そして一人暮らし、いろいろな生活の形態が実現してきていると思います。しかし、災害時の避難体制や、個人で出来る防災準備などの点から、考え直していく動きがこの事件をきっかけに、きつちりと社会システムとして、実現して行かなければならないのではないかと実感した事故でした。

119番「私は障害者逃げられない」 25歳女性が焼死

別府市
分府
大分

21日午後2時10分ごろ、大分県別府市千代町、障害者や高齢者専用「ユニバーサルマンション」(7階建)の6階に住むNPO法人職員ら、大分県別府市千代町、障害者や高齢者専用「ユニバーサルマンション」(7階建)の6階に住むNPO法人職員ら、わたって119番通報が五ノ風さんの25(26)からあった。ベッドや寝たきり状態で寝たきりの状態で約4平方メートルが焼け、消防隊員が五ノ風さんを救出したが、全身にやけどを

負っており、まもなく死亡した。別府署の調べでは、五ノ風さんは手足が不自由で寝たきりの状態で介助が必要だったが、法人の職員として活動していたという。ひとり暮らしだった。マンションは館内を車いすで自由に移動できるようなバリアフリー設計、自立生活を営む障害者の安全のためオール電化で、ふだんは火の気がないという。ベッド付近が激しく焼けおり、同層で出火原因を調べている。

4月22日付朝日新聞朝刊



6月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」6月の出会い

日 時：6月17日(日)午後1時30分～4時
内 容：小さな命が、みんな幸せであってほしい
-小さないのちはどこへ行く、ペットを
飼う人たちに知ってほしいこと-
ゲ ス ト：甲斐尚子(かいしょうこ)さん
加賀爪啓子(かがづめけいこ)さん
(認定NPO法人日本アニマルトラスト
ハッピーハウス・動物の孤児院)
会 費：なし
場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビュー
ロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」6月の出会い

日 時：6月23日(土)
集合=午後12時JR塚本駅改札or13時JR
長岡京駅改札
13時30分の見学です。13時10分の送迎
バスに乗り遅れないように。
内 容：サントリー京都ビール工場
会 費：なし
(但し最寄り駅からの交通費は各自負担)
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎06-6494-0635
中本 ☎090-9864-9678

■「サロン「アイ」」6月の出会い

日 時：6月9日(土)午後1時30分～4時
内 容：しょうがい者と芸術
パネラー：山下里加氏
(ライター・京都造形芸術大学講師)
会 費：なし
場 所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20
問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビュー

ロー) ☎06-6712-3101

○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎06-6757-8574

■「サロン・にし」6月の出会い

日 時：6月9日(土)午後2時～4時
内 容：将棋をしよう!(将棋板等準備しています)
場 所：西区在宅サービスセンター第1会議室
大阪市西区新町4-5-14
☎06-6539-8075
会 費：なし
問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■《てくてく・すみよし》6月の出会い

日 時：6月16日(土)午前11時～午後3時
内 容：お好み焼きパーティー
場 所：あびさんサロン
会 費：1000円
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」6月の出会い

日 時：6月3日(日)午後1時30分～4時
内 容：介助犬の現状と展望
-介助犬に興味のある方、単純に犬が大好
きな方も楽しめます-
ゲ ス ト：濱本浩喜氏・井土希氏(兵庫介助犬協会)
会 費：なし
場 所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
奥井 ☎06-6913-7070

■「サロン北」6月の出会い

日 時：6月16日(土)午後2時～4時30分
内 容：未定
場 所：障害者福祉作業センター「たけのこ」
大阪市北区本庄東2-6-11宝来堂ビ
ル1階
問い合わせ先：障害者福祉作業センター
「たけのこ」内 ☎06-6372-8074

■「サロンいたみ」6月の出会いはお休みです

絵がうたうー 絵とうたうー

童謡 ♪ 絵はがき

♪春

- ・ 仰げば尊し
- ・ 春よ来い
- ・ 早春賦
- ・ 春が来た
- ・ どこかで春が

♪子ども

- ・ 青い目の人形
- ・ モーツァルトの子守歌
- ・ 1年生になつたら
- ・ おべんとう
- ・ 仲よし小道

♪汽車

- ・ 汽車ポッポ
- ・ 汽車ほつほ
- ・ かもつれつしゃ
- ・ 鉄道唱歌
- ・ 汽車

♪花

- ・ チューリップ
- ・ 庭の千草
- ・ からたちの花
- ・ この道
- ・ さくら さくら

♪雨

- ・ あまがさからかさ
- ・ てるてる坊主
- ・ 雨降りお月さん
- ・ 雨
- ・ あめふり

♪5月

- ・ 背くらべ
- ・ 5月の歌
- ・ 茶摘
- ・ コイノボリ
- ・ 鯉のぼり

♪海

- ・ 海
- ・ 椰子の実
- ・ われは海の子
- ・ 浜辺の歌
- ・ うみ

♪花II

- ・ 野菊
- ・ 野なかの薔薇
- ・ ひらいたひらいた
- ・ 夏の思い出
- ・ 酸模(すかんぼ)の咲く頃

♪冬

- ・ スキー
- ・ 冬の星座
- ・ 冬景色
- ・ たきび
- ・ 冬の夜

♪正月

- ・ 1月1日(いちがついちじつ)
- ・ お正月
- ・ ひとめふため
- ・ 正月のうた
- ・ 凧あがれ

サロン20周年記念

童謡 ♪ 絵はがき

■ 5枚1組 ¥180

寄りみち



<サロン・あべの> 20周年記念に企画した「童謡 ♪ 絵はがき」が「子ども」に始まって「5月」まで、10シリーズになりました。これから先も引き続き、季節を追って「夏」「秋」「雪」「四季」「お母さん」「故郷」「虫」などのシリーズを予定しています。絵がうたうー 絵とうたうー 「童謡 ♪ 絵はがき」で、送る人も、送られた人も、幼いころの風景、情感が甦り、ホッとした気持ちになればと思います。(石)

<サロン・あべの> VOL. 251 発行：平成19(2007)年5月19日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます